

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600451		
法人名	有限会社 エルダーハウス		
事業所名	グループホーム千草		
所在地	静岡県三島市徳倉3丁目6番16号		
自己評価作成日	平成22年11月18日	評価結果市町村受理日	平成23年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2270600451&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成22年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「一つ屋根の下で一緒に暮らしませんか」グループホーム千草は、既存の住宅で、6人のお年寄りスタッフが家族的な関係で暮らしております。介護が重度化してもその時々を楽しみを創ってあげる事。又毎年恒例の行事と日々の体調にあわせ外出しております。ホームの一番の自慢は毎日の食事です。スタッフは、料理のベテラン揃いです。皆さんの美味しい顔がみたくて頑張っております。訪問診療 訪問歯科診療 訪問看護ステーションとの契約により24時間365日の連携体制をとっており安心です。ターミナル期 尊厳ある看取りもさせていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、山懐に近い閑静な住宅地に位置し、管理者が慣れ親しんだ我が家を改築して開所し、地域密着型を地で行く運営がされている。地域は管理者の呼びかけに応え、行政の協力も得て、利用者・家族・近隣・職員が一体となって「一つ屋根の下」で一緒に暮らしている。管理者やスタッフは、利用者のその人らしさを尊重する「パーソンセンタードケア」や高齢者からの「手紙～親愛なる子供たちへ～」の実践に前向きに取り組んでいる。自慢の毎日の食事や折々の行事・医療機関との連携の良さも評価され、家族からも大変喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一つ屋根の下で一緒に暮らしませんか。」を理念に既存の住宅を改築し、家族的な雰囲気の中で利用者が明るく、楽しく安らぎのある生活を送れるように実践している。	管理者の住み慣れた自宅を改築してできたホームで、左記理念を掲げ、管理者・職員が利用者・家族・地域と一体となり、地域密着型に相応しい実践が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は、地域の一員として日常的に交流しています。自治会の行事 防犯パトロールふれあい祭り等に参加し地域の一員として活動 交流をしています。	地域では先輩格の管理者の親の代から、地元との信頼関係ができており、利用者は事業所と一体となり、地域行事への参加等、日常的に地域との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援を地域の人々に向けて発信しています。認知症サポーターとして、要請講座を開いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回の運営推進会議は、白熱した意見交換がなされており、サービスの向上にいかされています。地域の住民の参加もありホームの理解や、協力におおいに役立っています。	地元代表・民生委員・知見者・介護相談員・地域包括支援センター職員・利用者・家族・職員が参加し、2カ月に1回着実に開催されている。会議では様々な経過報告や今後の予定等が話し合われ、運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的につたえています。また、三島市のグループホーム連絡会とも協力体制を築いている。	市の窓口とは日常的に報告・連絡・相談を行い、適切なアドバイスを得ている。市のグループホーム連絡会では、情報交換や困難事例の研究等が行われ、有益である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの取り組みに職員全員が正しく理解している。	職員全員が禁止対象となる具体的な基準を正しく理解し、身体拘束0の実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について研修しています。虐待防止が徹底しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や青年後見制度について学習 支援 活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等 十分な説明を行い理解と納得を図っています。改定の際は、家族会等で説明。承認を受けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者 家族等の意見は、管理者 職員等に即日 反映している。重要なことは、全体会議を徴集し、即実行している。	日常の電話や来訪、ホーム行事・家族会、またそれらの機会を利用した運営推進会議等で利用者や家族の意見・要望を把握し、ホームの運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員は、常に意見交換を行い、運営に反映しています。	毎月の全体会議・日常の介護日誌・時には食事会等で何でも言い合い話し合える関係ができており、職員の意見が尊重され、運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職場環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、法人内外の研修を受ける機会を確保し、職員一人ひとりのレベルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互の活動を当してサービス向上につとめています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から時間をかけて本人との信頼関係を築いてから入居し、不安を減らし、本人の要望を理解して、安心確保に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から時間をかけて家族等の信頼関係を築いています。困っていること、不安要望を理解しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の見極めと信頼関係づくりに努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人と共に過ごし支えあう関係をきずいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族と共に、本人を支えあう関係にあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場との関係維持の支援をしています。法事に出席 町のイベントに参加 お友達 親族の行き来を続けています。	今まで大切にしてきた馴染みの人や場所について、法事・ふれあい祭り・芋掘り・友人や親族の行き来等を通じて、それらの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり合い、支えあえるような支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も今までの関係を大切に続けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活暦を大切にして、本人の意向と希望を重視したケアに努めています。	入居前に本人や家族から思いや意向を聞き、更に日々の観察の中で一人ひとりの思いを把握するよう努めている。少しの気づきも職員間で共有できている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状態に合わせた過ごし方をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティングの他に、毎月全体会議で個々の状態把握と経過を担当者が、記録し、それを基に、介護計画を作成変更をしている。状態に大きな変化があった時は、臨時に全体会議を実施している。	介護計画は毎月見直しをし、長期・短期目標もその時にあった計画が立て直しされている。利用者の変化などがある時にも、必要に応じ順次見直し・変更されており、家族の確認も取っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護日誌を職員間で共有しながら介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	少人数の為に出来る、ホーム独自のサービスを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握して、安全で豊かな生活が出来る様に支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人や家族の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援しています。	本人や家族の希望により、入居時に協力医の変更について確認を取っている。協力医は毎月往診があり、往診時には管理者は利用者一人ひとりの健康状態を的確に報告し、医師との信頼関係も築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の医療機関との協働が出来ている。入院時は、施設長が毎日面会に行き、利用者が不安なく治療が受けれるように支援し医療関係者との情報を共有し、早期に退院出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期にむけた方針を、本人 家族、医療 事業所(介護職)と十分な話し合いがされている。	重度化に向けた本人や家族の意向もその都度聞き、確認書も取っている。また看取りのケアを実施した経験もあり、職員も自然に受け止めており、研修も行われているが、業務マニュアルの作成には至っていない。	職員が終末期に対する前向きな姿勢を持っている。今後は看取り介護に向けた業務マニュアルの作成や、実践的な研修を重ねて行く事を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生に備えて、全ての職員は、応急手当や初期対応が出来るように、常時訓練 研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策の訓練 地域との協力体制を築いている。	災害に備え、水や食料などの備蓄は準備されている。定期的な防災訓練も自治会の人の協力を得ながら一緒に行われたり、自治会の防災訓練にも参加しており、近隣住民の応援体制も整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳とプライバシーの確保に努めている。	個々のファイルや書類は事務所に保管されている。プライバシーを損ねない声掛けも実践されており、職員が利用者の人格を尊重したケアを提供している事が伺えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が、思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事が楽しみであるように支援されている。	毎日の食事が楽しめるように庭先の花をテーブルに飾ったり、入居時に趣向調査をしており調理の得意な職員により、おいしい食事が提供されている。食事中も笑い声が絶えず、和やかで明るい雰囲気だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分確保の支援の為に各職員が、大変な努力をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持がされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄チェック表から利用者一人ひとりのパターンをつかみ、リハビリパンツ使用で失禁の心配を軽減したり、外出や安眠の効果を引き出す工夫をしている。	個々の排泄パターンは、排泄チェック表により把握されている。その人に合ったさりげない声掛けにてトイレ誘導し、排便も薬に頼らない自然の排便をと、食事の献立も工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防の為に食事や散歩など個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	火 木 土曜日の入浴を基本に、希望に応じて入浴やシャワー浴 足湯 清拭等の支援を行っている。外出や外食の際に温泉に立ち寄る楽しみも実施している。	利用者の希望によっては毎日でも入浴できるよう支援している。体調によっては足浴、清拭等で清潔を保っている。外出時に温泉に立ち寄る楽しみも支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息の支援がされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	くすりの目的や副作用、用法 容量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認 報告を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割 楽しみ 喜びのある生活の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の犬を連れて散歩の他に、お花見ドライブ イルミネーション 芦ノ湖の花火 ホテル泊旅行 食事会等家族を交えて外出の支援に努めている。	可愛がっている犬を連れて散歩に周辺の山まで出掛けて行ったり、季節に合わせての外出の機会も多く、花見や花火大会、イルミネーション等家族も交え共に楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持や使うことの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関 居間 廊下 に季節の花や写真などを飾っており、その時々行事を思い出し日当たりの良いリビングで、会話を楽しんでいる。	共有空間の居間や壁には季節感を感じられるような、花や写真が飾られて、軒先には干し柿が下がり、ゆっくりと時間が過ぎていくのが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間における一人ひとりの居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせる居室の配慮がされている。	居室には馴染みの家具が持ち込まれている。家族の写真やぬいぐるみ、木目込み人形などが飾られており、利用者が安心して暮らせるよう配慮され、各自の生活習慣に合わせた居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を活かした安全な環境づくりをしている。		